

広報 Koho Gallery  
展示室

第7回

企画展 春夏秋冬の暮らし

尾形月耕 「浮世十二ヶ月 三月 秋色」

今年もようやく桜の季節がやってきました。桜を追って全国を漫遊する楽しみをお持ちのかたもずいぶんいらっしゃるようです。日本に桜の名木は多いのですが、そのほとんどが、なんらかの逸話を持っているものです。

寛永寺山内（現上野公園・東京都台東区）にある「秋色桜」もそのひとつ。江戸時代のある日のこと、日本橋小網町にあった菓子屋の娘おあきは、清水観音堂の井戸端にあるしだれ桜を見て「井戸端の桜あぶなし酒の酔」という歌を詠み、短冊にしたためて枝にとりつけました。その歌が、寛永寺御門跡宮の目にとまり、大変なおほめの言葉をいただいたということです。おあき、このとき13歳。その後、秋色という号で俳人として活躍したといえます。彼女の早熟な才女ぶりを伝えるこの伝説は、どうやら後世に付け足された部分が多いようですが、「秋色桜」は植え継がれて、現在も観音堂のそばにあります。

尾形月耕（1859～1920）が描いた本図は、その伝説を説明するような作品です。丘の下で酔人が戯れており、彼らの騒がしさに女性たちが何事か



尾形月耕「浮世十二ヶ月 三月 秋色」大判  
明治23年(1890) 当館蔵

と振り返っています。井戸端のしだれ桜の下では、おあきと思われる娘が短冊を手にしつつ、その光景を見えています。おあきの足元に紅色の花びらが散っているのをみると、恐らくこの可憐な桜の盛りもあと少しというところでしょう。

花より団子とばかりに宴会で盛り上がるのもけっこうですが、花見酒も風情を壊さない程度に楽しむほうが、桜には相応しいようで…。

※本図は那珂川町馬頭広重美術館で、4月23日（日）まで開催の企画展「春夏秋冬の暮らし」に出品されています。

（学芸員 津田卓子）

ミニギャラリー  
作品募集!

あなたの作品をここに展示してみませんか?

絵画、写真、絵手紙、手芸などの作品をお待ちしております。

申込み・問合せ・企画財政課

☎0287-92-1114

シヨウシヨウバカマ(三輪)



ミニ  
ギャラリー



カタクリ群生(三輪)